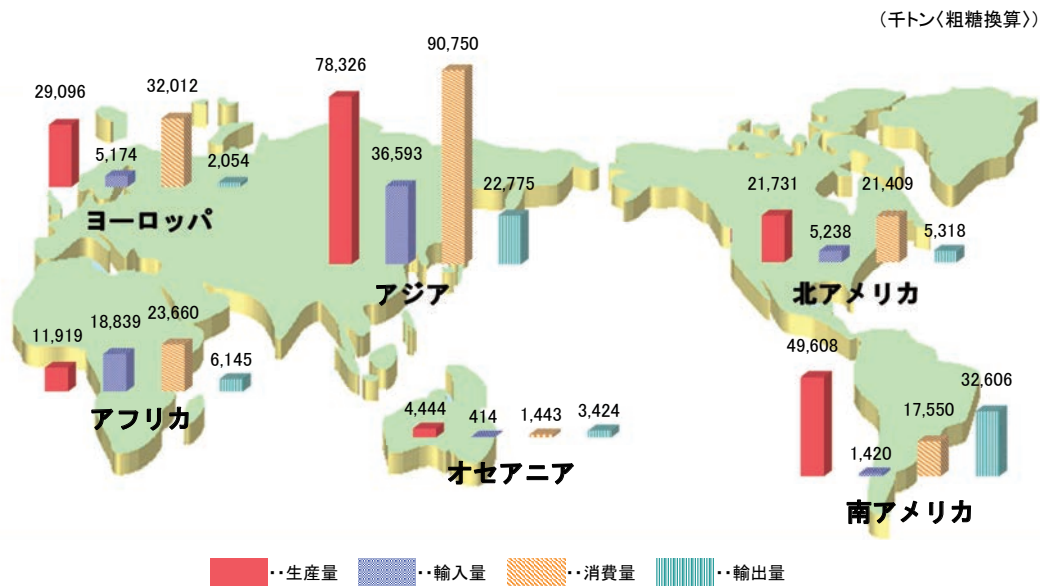


砂糖の国際需給

調査情報部 水野 崇、峯岸 啓之

1. 世界の砂糖需給（2022年12月時点予測）

図1 絵で見る世界の地域別砂糖需給（2022/23年度予測値）



資料：英国の民間調査会社LMC International「Quarterly Statistical Update, December 2022」

注1：年度は国際砂糖年度（10月～翌9月）。

注2：ヨーロッパには、ロシアを含む。

表1 世界の砂糖需給の推移

(単位：千トン(粗糖換算)、%)

年度	期首在庫量	生産量	輸入量	消費量	輸出量	期末在庫量	期末在庫率
1992/93	43,275	110,780	28,551	109,895	29,700	43,011	39.1
1997/98	53,920	126,205	35,557	120,805	39,806	55,071	45.6
2002/03	60,687	149,947	42,690	140,189	45,359	67,776	48.3
2007/08	62,150	166,772	45,454	158,489	48,802	67,085	42.3
2012/13	53,771	185,867	60,712	173,346	63,294	63,710	36.8
2017/18	68,310	195,571	65,920	180,930	68,088	80,783	44.6
2018/19	80,783	186,591	61,001	182,922	61,696	83,757	45.8
2019/20	83,757	181,369	69,390	182,015	71,932	80,569	44.3
2020/21	80,569	181,996	67,886	185,420	68,257	76,774	41.4
2021/22	76,774	186,450	69,987	187,851	71,342	74,019	39.4
2022/23 (2022年12月予測)	74,019	195,124	67,679	186,824	72,322	77,676	41.6

資料：LMC International「Quarterly Statistical Update, December 2022」

注1：年度は国際砂糖年度（10月～翌9月）。

注2：2020/21年度および2021/22年度の数値は推定値、2022/23年度の数値は予測値。

注3：期末在庫量は（期首在庫量+生産量+輸入量-消費量-輸出量）。

注4：期末在庫率は、期末在庫量を消費量で除した割合。

「世界の砂糖需給」「主要国の砂糖需給」は四半期ごとの報告となっていますので、次回は2023年4月号の掲載予定となります。直近の内容は2023年1月号をご参照ください。

「世界の砂糖需給」：https://www.alic.go.jp/joho-s/joho07_002836.html

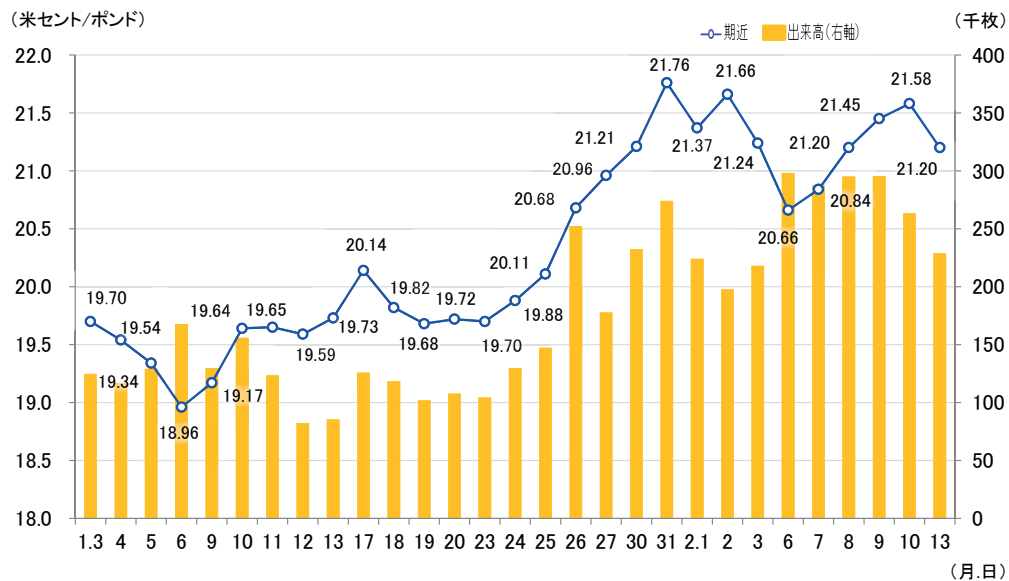
「主要国の砂糖需給」：https://www.alic.go.jp/joho-s/joho07_002837.html

2. 国際価格の動向

ニューヨーク粗糖先物相場の動き（1/3～2/13）

～1月後半には21セント台まで上昇し、約6年ぶりの高値を記録～

図2 ニューヨーク粗糖先物相場の動き



資料：インターコンチネンタル取引所（ICE）
注：期近3月限の値。

2023年1月のニューヨーク粗糖先物相場（3月限）の推移を見ると、12月下旬からの下落傾向の流れを引き継いで、1月3日は、インド製糖協会（ISMA）が同国の砂糖生産量（22/23年度10～12月）を前年同期比3.7%増と公表したことから、1ポンド当たり19.70セント（注1）に下落した。4日以降も原油安（注2）やリアル安（注3）により引き続き値を下げ、6日は、同18.96セントと2カ月ぶりに同19セントを下回った。9日以降は原油高などにより緩やかに伸び、10日は、同19.64セントまで上昇した。17日は、原油価格が高値となったことを受けて同20.14セントまで上昇して20セント台に乗せたが、18日には、原油が下落に転じたことから、同19.82セントと下落した。24日は、ブラジルの国営石油会社ペトロブラスがガソリンの卸売価格を7%以上引き上げるとの報道を受け、ガソ

リン需要が高まるとの期待から、同19.88セントと上昇した。25日は、リアル高により20.11セントと、再び20セント台に乗せた。その後、インドでの砂糖生産量の減少見込みや、EUでのてん菜種子へのネオニコチノイド系農薬のコーティング剤の例外的利用が禁止されるとの報道など、砂糖生産量の先行きの不透明感から続伸した。31日には、ISMAが22/23年の砂糖生産量の予想を下方修正するとともに、輸出量の予測を引き下げたことなどから、同21.76セントと高騰した。

2月に入って、1日は、原油安から同21.37セントと下落したが、2日は、同21.66セントとやや値を戻した。3日は、原油安から同21.24セントと値を下げ、6日は、ドル高などが加わり、さらに同20.66セントまで下落して、21セント台を割り込んだ。8日は、原油高などから上昇に転じて、同

21.20セントと、再び21セント台を付けた。10日は、ブラジルサトウキビ産業協会（UNICA）が1月後半のブラジル中南部地域のサトウキビ生産量が前年同期を上回ったと発表した一方で、EU第2位の生産国であるフランスと、インドの両国で砂糖生産が減るとの懸念から、同21.58セントと続伸した。13日は、世界第2位の砂糖輸出国であるタイで、2月上旬時点の累計の収穫量が昨年度より10%増加し、糖度が過去最高を記録したとの報道などから、同21.20セントと値を下げた。

（注1）1ポンドは約453.6グラム、1米セントは1米ドルの100分の1。

（注2）一般に、原油価格が下落すると、石油の代替燃料であるバイオエタノールの需要も減少する。バイオエタノールの需要減少により、その原料作物（サトウキビ、てん菜など）のバイオエタノール生産への仕向けが減る一方、それらから生産される食品（サトウキビの場合は砂糖）の生産・供給が増えると想定される。食品用途仕向けの度合いが大きくなるほど需給が緩和し、当該食品の価格を押し下げる方向に作用する。

（注3）粗糖は米ドル建てで取引されるため、米ドルに対してレアルが下落すると、相対的にブラジル産粗糖の価格競争力が高まる。世界最大の砂糖輸出国ブラジルの輸出意欲が高まると、需給の緩和につながることから、価格を押し下げる方向に作用する。

3. 世界の砂糖需給に影響を与える諸国の動向（2023年2月時点予測）

ブラジル

2022/23年度（4月～翌3月）の見通し

【サトウキビ】

収穫面積：859万ha（前年度比1.0%減）
生産量：6億900万トン（同5.6%増）

【砂糖（甘しゃ糖）】

生産量：3983万トン（同5.9%増）
輸出量：2928万トン（同8.1%増）

2022/23年度の砂糖生産量はやや、輸出量はかなりの程度増加する見込み

LMC International（農産物の需給などを調査する英国の民間調査会社）による2023年2月時点の予測によると（以下、特段の断りがない限り同予測に基づく記述）、2022/23年度（4月～翌3月）のサトウキビ収穫面積は、前年度の不作による苗不足や、大豆やトウモロコシなどほかの作物との競合から859万ヘクタール（前年度比1.0%減）とわずかに減少すると見込まれる（表2）。一方でサトウキビ生産量は、中南部地域が生育初期に平年より乾燥した気候となり、9月以降は降雨が続いて収穫作業が遅れたものの、その他の地域ではサトウキビの

生育に良好な条件が続いたことから6億900万トン（同5.6%増）とやや増加すると見込まれる。砂糖生産量は、燃料に対する連邦税の免除や7月から相次ぐガソリンの卸売価格引き下げを受けて、相対的に同国内でのバイオエタノール需要が減少したことで砂糖仕向けの増加が見込まれることや、中南部地域の気候が良好で、雨季が始まる前に予想よりも多くのサトウキビが収穫されたことなどから、3983万トン（同5.9%増）とやや増加すると見込まれる。輸出量は、インドの輸出量が予想を下回ったことや、砂糖への仕向け増を背景に2928万トン（同8.1%増）とかなりの程度増加すると見込まれる。

表2 ブラジルの砂糖需給の推移

(単位：千ha、千トン、%)

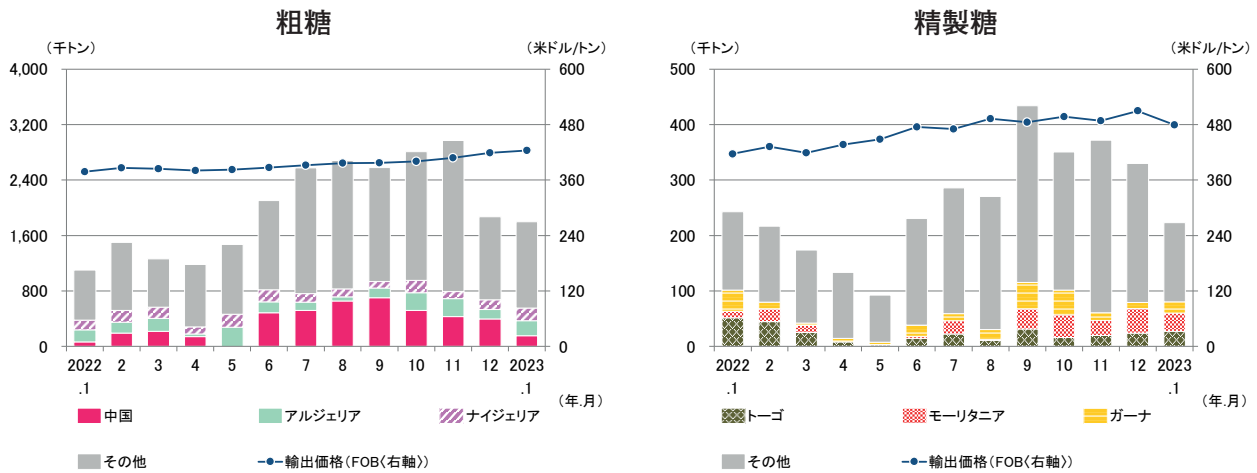
年度	2019/20	2020/21	2021/22	2022/23 (1月予測)	2022/23 (2月予測)	前年度比 (増減率)	
サトウキビ収穫面積	8,599	8,651	8,679	8,548	8,589	▲1.0%	
サトウキビ生産量	642,677	657,432	576,707	606,000	609,000	5.6%	
砂糖	生産量	31,804	44,642	37,620	39,680	39,830	5.9%
	輸入量	6	8	9	8	8	▲10.6%
	消費量	10,842	10,916	10,718	10,506	10,557	▲1.5%
	輸出量	20,321	34,042	27,088	29,172	29,276	8.1%
	期末在庫量	3,778	3,469	3,293	3,275	3,298	0.2%
	期末在庫率	12.1	7.7	8.7	8.3	8.3	0.4ポイント減

資料：LMC International「Monthly Sugar Information in Major Countries, February 2023」

注1：2020/21年度および2021/22年度の数値は推定値、2022/23年度の数値は予測値。

注2：期末在庫量、期末在庫率および各項目の前年度比は、端数処理の関係で表中の値の計算結果と一致しない場合がある。

(参考) ブラジルの砂糖(粗糖・精製糖別)の輸出量および輸出価格の推移



資料：「Global Trade Atlas」

注1：HSコード1701.14(粗糖)および1701.99(精製糖)の数値。

注2：輸出量は、直近13カ月(累計)の上位3カ国・地域を表示。

インド

2022/23年度(10月～翌9月)の見通し

【サトウキビ】

収穫面積：554万ha(前年度比5.7%増)

生産量：4億5563万トン(同1.6%増)

【砂糖(甘しゅ糖)】

生産量：3676万トン(同4.8%減)

輸出量：769万トン(同38.3%減)

2022/23年度の砂糖生産量はやや減少し、輸出量は大幅に減少する見込み

2022/23年度(10月～翌9月)のサトウキビの収穫面積は、国内の高いサトウキビ需要を背景に価格上昇が加速するとの予測から、554万ヘクタール(前年度比5.7%増)とやや増加すると見込まれる(表3)。サトウキビ生産量は、主産地であるマ

ハラシュトラ州やカルナータカ州における降水量の偏りや日照時間の短さなどから収穫量が減少したものの、最大生産地のウツタル・プラデーシュ州での生育は順調であり、4億5563万トン(同1.6%増)とわずかに増加すると見込まれる。一方で、砂糖生産量は、同国におけるサトウキビのエタノール仕向けが増加したことなどから、3676万トン(同

4.8%減)とやや減少すると見込まれる。輸出量は、同国政府が昨年11月上旬に22/23年度の砂糖輸出枠を600万トンと発表したものの、21/22年度と同程度(1120万トン)まで輸出枠の拡大(追加承認)の可能性もあるとしつつも、21/22年度との比較

においては、大幅に下回る769万トン(同38.3%減)が見込まれる。なお、同国の製糖工場では1月末時点で580万トンの砂糖輸出契約が締結され、そのうちの180万トンが2022年末時点で輸出されているとしている。

表3 インドの砂糖需給の推移

(単位:千ha、千トン、%)

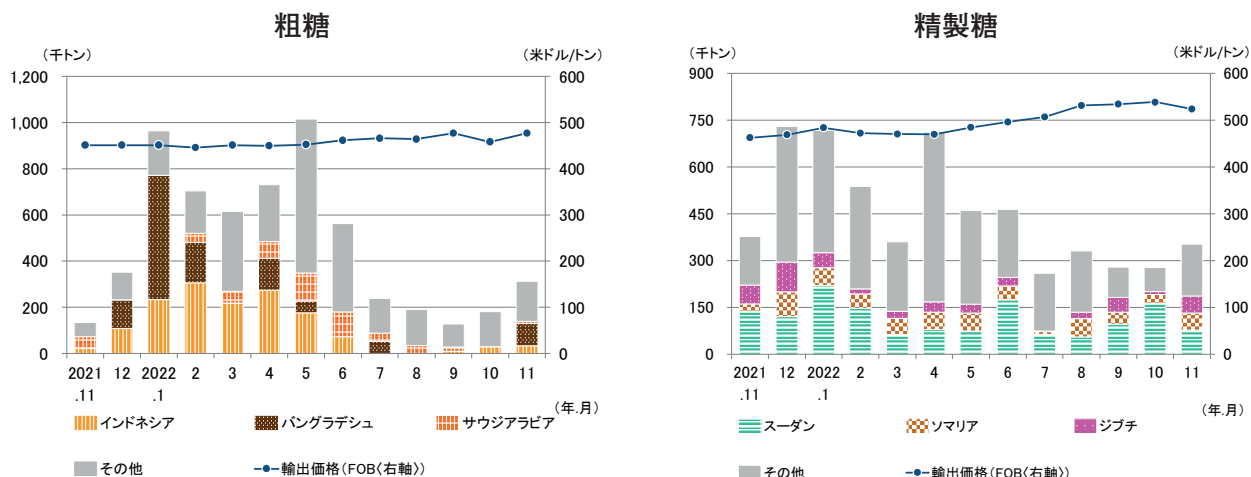
年度	2019/20	2020/21	2021/22	2022/23 (1月予測)	2022/23 (2月予測)	前年度比 (増減率)	
サトウキビ収穫面積	4,642	4,906	5,242	5,464	5,542	5.7%	
サトウキビ生産量	369,805	421,687	448,570	461,347	455,634	1.6%	
砂糖	生産量	29,544	33,642	38,613	37,480	36,758	▲4.8%
	輸入量	1,686	1,022	420	432	648	54.2%
	消費量	27,324	28,679	29,376	29,916	29,916	1.8%
	輸出量	8,254	8,538	12,468	8,658	7,688	▲38.3%
	期末在庫量	10,510	7,956	5,145	4,602	4,947	▲3.8%
	期末在庫率	29.5	21.4	12.3	11.9	13.2	0.9ポイント増

資料: LMC International [Monthly Sugar Information in Major Countries, February 2023]

注1: 2020/21年度および2021/22年度の数値は推定値、2022/23年度の数値は予測値。

注2: 期末在庫量、期末在庫率および各項目の前年度比は、端数処理の関係で表中の値の計算結果と一致しない場合がある。

(参考) インドの砂糖(粗糖・精製糖別)の輸出量および輸出価格の推移



資料: [Global Trade Atlas]

注1: HSコード1701.14(粗糖)および1701.99(精製糖)の数値。

注2: 輸出量は、直近13カ月(累計)の上位3カ国・地域を表示。

中国

2022/23年度（10月～翌9月）の見通し

【サトウキビ】

収穫面積：113万ha（前年度比1.0%増）

生産量：7185万トン（同0.4%減）

【てん菜】

収穫面積：15万ha（同2.9%増）

生産量：811万トン（同14.8%増）

【砂糖（甘しゅ糖およびてん菜糖）】

生産量：1069万トン（同3.5%増）

輸入量：660万トン（同6.4%減）

2022/23年度の砂糖生産量はやや増加し、 輸入量はかなりの程度減少する見込み

2022/23年度（10月～翌9月）のサトウキビの収穫面積は、113万ヘクタール（前年度比1.0%増）とわずかに増加すると見込まれる（表4）。サトウキビ生産量は、主産地の広西チワン族自治区の一部で熱波や干ばつの被害を受けたものの、その他の地域での被害は軽微であったことから、7185万トン（同0.4%減）とわずかな減少にとどまると予想される。一方で、同年度のてん菜の収穫面積は、トウモロコシ価格の高騰を背景に政府が3月に穀物の増産を呼びかけたことから、他作物への転作が増加したものの、15万ヘクタール（同2.9%増）と前年度からの増加が見込まれる。てん菜生産量は、順調な生育により811万トン（同14.8%増）とかなり大きく増加すると見込まれる。

砂糖生産量は、広西チワン族自治区の一部で7月から11月まで干ばつが続いたもののサトウキビが順調に生育していることや、てん菜の栽培面積の減少を受け、農家に対しててん菜の栽培を促すために、工場がてん菜の価格を過去最高値に引き上げたことなどから、1069万トン（同3.5%増）とやや増加すると見込まれる。輸入量は、20/21年度に引き続き21/22年度も国内生産の不足分を上回る量が輸入され、国内在庫が積み増しされている中で、前月予測から砂糖の増産幅が拡大したことなどを受けて、660万トン（同6.4%減）とかなりの程度減少

すると見込まれる。

ブラジルの遺伝子組み換えサトウキビ由来の原料糖の安全性を承認

中国農業農村部は、1月13日にブラジルで開発された遺伝子組み換えサトウキビ由来の原料糖の安全性を承認した。

今回、安全性を承認した品種は、世界で初めて実用化された遺伝子組み換えサトウキビの2種類で、サトウキビやトウモロコシの葉や茎を食害するガの幼虫（ツマジロクサヨトウ）に対して抵抗性があるとされる。

また、遺伝子組み換えサトウキビの原料糖のほか、除草剤に耐性のあるアルファルファや綿花など、遺伝子組み換え作物由来の加工用原料について複数の品種の安全性が承認された。なお、ブラジルのサトウキビを含む遺伝子組み換え作物由来の原料糖などについて、中国が安全性を承認するのは今回が初めてとなる。これらの承認は、2023年1月5日から28年1月4日まで有効となる。

本原料糖の安全性が世界最大の砂糖輸入国である中国で承認されたことで、今後、ブラジルで遺伝子組み換えサトウキビの作付け機運が高まることも見込まれる。

表4 中国の砂糖需給の推移

(単位：千ha、千トン、%)

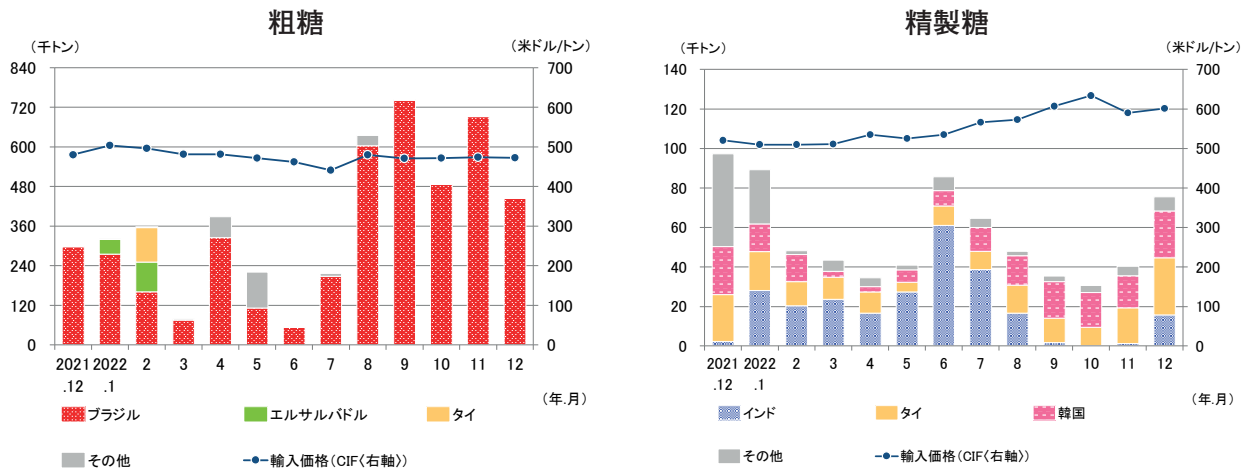
年度	2019/20	2020/21	2021/22	2022/23 (1月予測)	2022/23 (2月予測)	前年度比 (増減率)	
サトウキビ収穫面積	1,176	1,157	1,119	1,131	1,131	1.0%	
サトウキビ生産量	73,715	72,441	72,136	71,846	71,846	▲0.4%	
てん菜収穫面積	213	231	144	144	148	2.9%	
てん菜生産量	10,900	12,330	7,070	7,484	8,112	14.8%	
砂糖	生産量	11,258	11,530	10,334	10,640	10,694	3.5%
	輸入量	6,661	8,219	7,056	6,618	6,604	▲6.4%
	消費量	16,308	16,740	16,524	16,740	16,848	2.0%
	輸出量	192	132	169	172	173	2.4%
	期末在庫量	12,660	15,537	16,235	16,549	16,513	1.7%
	期末在庫率	76.7	92.1	97.3	97.9	97.0	0.2ポイント減

資料：LMC International「Monthly Sugar Information in Major Countries, February 2023」

注1：2020/21年度および2021/22年度の数値は推定値、2022/23年度の数値は予測値。

注2：期末在庫量、期末在庫率および各項目の前年度比は、端数処理の関係で表中の値の計算結果と一致しない場合がある。

(参考) 中国の砂糖(粗糖・精製糖別)の輸入量および輸入価格の推移



資料：「Global Trade Atlas」

注1：HSコード1701.14(粗糖)および1701.99(精製糖)の数値。

注2：輸入量は、直近13カ月(累計)の上位3カ国・地域を表示。

E U

2022/23年度(10月～翌9月)の見通し

【てん菜】

収穫面積：140万ha(前年度比3.9%減)

生産量：9835万トン(同11.8%減)

【砂糖(てん菜糖)】

生産量：1550万トン(同9.8%減)

輸出量：98万トン(同25.3%減)

2022/23年度の輸出量は、依然として100万トン割れの見込み

2022/23年度(10月～翌9月)のてん菜の収穫面積は、ロシアによるウクライナ侵攻の影響により、世界的な規模で深刻な食糧不足や食糧価格の高騰に対する懸念が広がる中、収益性が高く、価格が高騰

しているトウモロコシなどの穀物への転作が進んだことなどから、140万ヘクタール(前年度比3.9%減)とやや減少すると見込まれる(表5)。てん菜生産量は、今夏の記録的な熱波や干ばつの影響のほか、肥料価格高騰による施肥の減少、スペインでの収穫期の豪雨による収穫の中断などから収量が平年

を下回るものと見込まれ、9835万トン（同11.8%減）とかなり大きく減少すると見込まれる。砂糖生産量は、てん菜の減産見込みを受けて1550万トン（同9.8%減）とかなりの程度減少すると予想される。輸出量は、砂糖の減産などを背景に98万トン（同25.3%減）と前月予測と同様に100万トンを下回り、大幅に減少すると見込まれる。

フランスの製糖メーカー、23年産のてん菜買取価格の増額を表明

2023年1月27日付け現地紙によると、フランスの製糖会社クリスタル・ユニオン社は、てん菜の買取価格を糖度16度を基準に、22年の1トン当たり40ユーロ（5722円）^(注1) から、23年は同45ユーロ（6438円）へ1割以上引き上げると報じた。

EUでは、生態系に影響を及ぼすことが懸念されているネオニコチノイド系農薬の使用について、18年にはすべての作物で屋外での使用が禁止されるなど、厳しい制限が課されてきた^(注2)。しかし、度重なる病虫害の被害が発生する中で有効な打開策が見出せない状況が続いていた。そこで近年、EUでは経過措置として、同農薬の特例的な使用が弾力的に認められてきた^(注3)。しかし、23年1月19日に欧州司法裁判所（CJEU）は、EUでの同農薬の特例的使用を認める例外規定を否認する判決を下し

たことから、フランス政府は同農薬の使用について、今後は全般的にその特例的使用を認めないことを公表した。

同社の会長は、このような栽培現場での環境変化を受け、約9000人のてん菜生産者の生活を支え、かつEUにおけるてん菜の供給量確保のため、作付面積の維持に向けた取り組みとして、この度の買取価格引き上げの意義を強調した。

(注1) 1ユーロ=143.06円（三菱UFJリサーチ&コンサルティング株式会社「月末・月中平均の為替相場」の月末TTS相場。）

(注2) 詳細については、2018年5月31日付海外情報「欧州委員会、3種類のネオニコチノイド系農薬の屋外での使用禁止を決定（EU）」https://alic.alic.go.jp/chosa-c/joho01_002218.html、『砂糖類・でん粉情報』2020年10月号「生産割当廃止後のEUにおける砂糖および異性化糖産業の動向」https://www.alic.go.jp/joho-s/joho07_002302.htmlを参照されたい。

(注3) 欧州議会および理事会規則（EC）No.1107/2009で、加盟国は特定の作物に対して「特別な状況下」（具体的には「他の合理的な手段では封じ込めない危険性」がある場合）において、「緊急的な植物保護製品の使用制限緩和」が認められている。詳細については、2023年2月7日付海外情報「ネオニコチノイド系農薬の緊急使用に否認の判決（EU）」https://www.alic.go.jp/chosa-c/joho01_003455.htmlを参照されたい。

表5 EUの砂糖需給の推移

(単位：千ha、千トン、%)

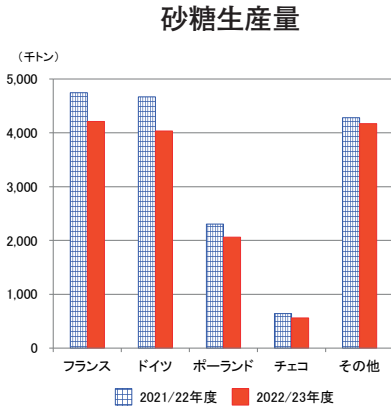
年度	2019/20	2020/21	2021/22	2022/23 (1月予測)	2022/23 (2月予測)	前年度比 (増減率)
てん菜収穫面積	1,517	1,474	1,453	1,398	1,397	▲ 3.9%
てん菜生産量	110,105	98,520	111,507	99,224	98,346	▲ 11.8%
砂糖	生産量	16,971	15,103	17,191	15,662	▲ 9.8%
	輸入量	2,230	1,888	2,133	2,783	33.5%
	消費量	17,019	16,847	17,808	17,749	▲ 0.9%
	輸出量	1,436	1,262	1,317	989	▲ 25.3%
	期末在庫量	2,410	1,292	1,490	1,300	▲ 19.2%
期末在庫率	13.1	7.1	7.8	6.9	6.5	1.3ポイント減

資料：LMC International「Monthly Sugar Information in Major Countries, February 2023」

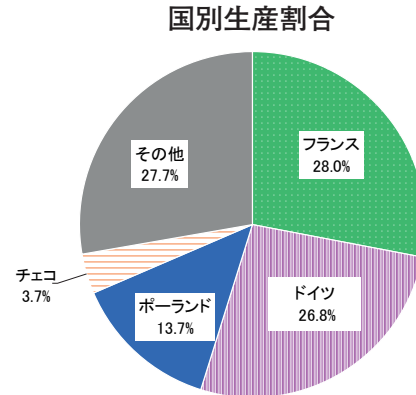
注1：2020/21年度および2021/22年度の数値は推定値、2022/23年度の数値は予測値。

注2：期末在庫量、期末在庫率および各項目の前年度比は、端数処理の関係で表中の値の計算結果と一致しない場合がある。

(参考) EUの砂糖生産量および国別の生産割合の見通し (2022/23年度) (2022年12月時点)



資料：欧州委員会
注1：精製糖換算。
注2：2021/22年度の数値は推定値、2022/23年度は予測値。



資料：欧州委員会

4. 日本の主要輸入先国の動向 (2023年2月時点予測)

近年、日本の粗糖（甘しや糖・分みつ糖〈HSコード1701.14-110〉および甘しや糖・その他〈同1701.14-200〉の合計）の主要輸入先は、豪州およびタイであり、2022年の主要輸入先ごとの割合を見ると、豪州が90.7%（前年比4.1ポイント増）、タイが9.3%（同4.1ポイント減）と、両国が大勢を占めている（財務省「貿易統計」）。

豪州

2022/23年度（4月～翌3月）の見通し

【サトウキビ】

収穫面積：34万ha（前年度同）
生産量：3220万トン（前年度比6.9%増）

【砂糖（甘しや糖）】

生産量：423万トン（同2.6%増）
輸出量：324万トン（同7.9%減）

2022/23年度の輸出量は、かなりの程度減少する見込み

2022/23年度（4月～翌3月）のサトウキビの収穫面積は、34万ヘクタール（前年度同）と横ばいで推移すると見込まれる（表6）。サトウキビ生産量は、3月と7月に主産地クイーンズランド州で洪水をもたらした降雨が、収量には良い影響を与え、前年より良好な生育が予想されることから、3220万トン（同6.9%増）とかなりの程度増加すると予想される。

砂糖生産量は、天候不順を受け今年度はCCS^(注)の低下が見込まれ、またラニーニャ現象による降雨の影響で収穫作業が停滞し、多くの製糖工場では処理作業が前年に比べ遅滞し、未処理のサトウキビが100万トン程度発生すると見込まれているものの、製糖工場での操業期間を1月下旬まで延長することで調整が進んでいることなどから、結果的には423万トン（同2.6%増）とわずかに増加すると見込まれている。また、輸出量は、砂糖生産量の上方修正や国内消費の減少見込みなどから、結果として前月

より増加したものの、今年度は減産を背景に324万トン（同7.9%減）と依然として前年との比較においては、かなりの程度の減少が見込まれる。

（注）可製糖率：サトウキビのショ糖含有率、繊維含有率および搾汁液の純度から算出される回収可能な糖分の割合。

表6 豪州の砂糖需給の推移

（単位：千ha、千トン、%）

年度	2019/20	2020/21	2021/22	2022/23 (1月予測)	2022/23 (2月予測)	前年度比 (増減率)	
サトウキビ収穫面積	364	354	342	350	342	▲ 0.0%	
サトウキビ生産量	30,046	31,074	30,114	32,000	32,200	6.9%	
砂糖	生産量	4,293	4,385	4,123	4,203	4,230	2.6%
	輸入量	17	10	9	16	16	74.0%
	消費量	1,052	1,010	1,010	1,040	1,009	▲ 0.2%
	輸出量	3,449	3,357	3,516	3,176	3,237	▲ 7.9%
	期末在庫量	780	809	416	352	416	0.0%
	期末在庫率	17.3	18.5	9.2	8.3	9.8	0.6ポイント増

資料：LMC International「Monthly Sugar Information in Major Countries, February 2023」

注1：2020/21年度および2021/22年度の数値は推定値、2022/23年度の数値は予測値。

注2：期末在庫量、期末在庫率および各項目の前年度比は、端数処理の関係で表中の値の計算結果と一致しない場合がある。

タイ

2022/23年度（10月～翌9月）の見通し

【サトウキビ】

収穫面積：171万ha（前年度比12.0%増）

生産量：1億800万トン（同17.3%増）

【砂糖（甘しゅ糖）】

生産量：1280万トン（同19.8%増）

輸出量：908万トン（同12.5%増）

2022/23年度の砂糖生産量は1億トンを超え、輸出量も900万トン超えの見込み

2022/23年度（10月～翌9月）のサトウキビ収穫面積は、前年が豊作で収穫が良好であったことや、競合するキャッサバに比べて収益が高い状況にあるといった理由から、171万ヘクタール（前年度比12.0%増）とかなり大きく増加すると見込まれる（表7）。サトウキビ生産量は、東北地域の低地帯で洪水が発生したものの、洪水の被害がなかった他の地域で収量が増加し、1億800万トン（同17.3%増）と1億トンを超える見込みとなっている。

砂糖生産量は、グリーンハーベスト^{（注1）}の普及を背景とした^{しょうとう}梢頭部や葉などの混入による歩留まりの低下や中部地方での収穫の遅れがあるものの、品質の高いサトウキビの収穫や生産量の増加から1280万トン（同19.8%増）と昨年に引き続き

1000万トン超えが見込まれ、輸出量も大幅な増産を受けて908万トン（同12.5%増）と、倍増した前年度からさらなる増加が見込まれる。

（注1）サトウキビを燃やさず、そのまま収穫する方法。従来、同国ではサトウキビを燃やした後に収穫するのが一般的であったが、大気汚染を引き起こすとの批判の高まりを受け、近年はグリーンハーベストが推進されている。

EUとの貿易協議を3月までに開始

2023年1月27日付け現地紙は、タイとEUの自由貿易協定（FTA）締結に向けた交渉に双方が合意し、3月には開始されると報じた。

タイにとってEUは、中国、米国、日本に次ぐ4番目の貿易相手である。22年のEUとの貿易額は410億米ドル（5兆3903億円）^{（注2）}と貿易額総額

の7%を占めた。EUとのFTA交渉は14年、同国で発生したクーデターにより、軍事政権が実権を掌握したことにEUが抗議したため、同年以降、中断していた。

同国政府による調査では、EUとのFTAが実現すれば、輸出だけでなく輸入や投資にも好影響を及ぼすとされ、GDPは年1.28%（8323億円）、輸出額は2.83%（8640億円）、また輸入額は2.81%（8157億円）それぞれ増加すると試算している。また同FTAの締結は、自動車、機械、衣料品、電

子機器、化学品、ゴム、プラスチックなどの工業製品や原料のほか、加工食品などにも恩恵を与えると見込まれている。しかし、その一方で影響を受ける品目として、砂糖、野菜、果物などの食料品が挙げられており、同国の農畜産物の生産や輸出の動向への影響が注目される。

（注2）1米ドル=131.47円（三菱UFJリサーチ&コンサルティング株式会社「月末・月中平均の為替相場」の月末TTS相場。）

表7 タイの砂糖需給の推移

（単位：千ha、千トン、%）

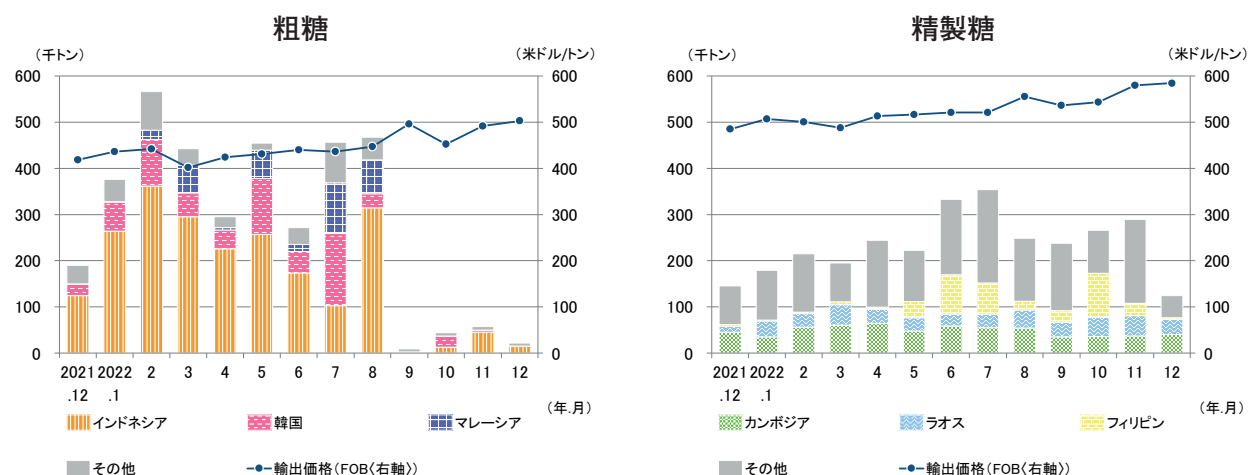
年度	2019/20	2020/21	2021/22	2022/23 (1月予測)	2022/23 (2月予測)	前年度比 (増減率)	
サトウキビ収穫面積	1,714	1,485	1,525	1,679	1,707	12.0%	
サトウキビ生産量	74,893	66,659	92,071	110,000	108,000	17.3%	
砂糖	生産量	8,801	7,971	10,688	12,473	12,804	19.8%
	輸入量	66	113	156	10	100	▲36.0%
	消費量	3,773	3,592	3,644	3,724	3,724	2.2%
	輸出量	8,461	3,981	8,069	8,746	9,080	12.5%
	期末在庫量	4,532	5,043	4,175	4,187	4,275	2.4%
	期末在庫率	37.0	66.6	35.6	33.6	33.4	2.3ポイント減

資料：LMC International「Monthly Sugar Information in Major Countries, February 2023」

注1：2020/21年度および2021/22年度の数値は推定値、2022/23年度の数値は予測値。

注2：期末在庫量、期末在庫率および各項目の前年度比は、端数処理の関係で表中の値の計算結果と一致しない場合がある。

（参考）タイの砂糖（粗糖・精製糖別）の輸出量および輸出価格の推移



資料：「Global Trade Atlas」

注1：HSコード1701.14（粗糖）および1701.99（精製糖）の数値。

注2：輸出量は、直近13カ月（累計）の上位3カ国・地域を表示。